

横山ゆずり作 「誘惑」

(効果音) (授業中のガヤ)
坂上先生 …つまり、だな。ここにXとYを当てはめてみると、二次方程式ができるわけだ…。

大野秀美 (ひそひそ声で)ねえ、美奈子、美奈子ってば。
関根美奈子 何よ、秀美。どしたの？
秀美 あのさあ、美奈子。来週の土、日、ヒマ？
美奈子 来週の土、日？ うん、もう夏休みだよねえ。ヒマだよ。なんで？
秀美 それじゃあさあ、うちに泊まりに来なよ。ちょうどお父さんとお母さん、一緒に旅行に行っちゃうから、だれもいなくなんのよ。だから、ね！
美奈子 本当?! …でもさ、おばさんたちがいない時じゃ悪いよ。
秀美 何言ってるのよ？ いないからいいんじゃない。せつかくの夏休みなんだからさ、自由にやろうよ、ね？
坂上先生 こら！ そこ、何くっちゃべってるんだ。いくら夏休みが近いからって。もっとシヤんとせい、シヤんと。
美奈子・秀美 はーい、すみませーん。
ナレーション ここは青春中学2年B組。夏休みを間近に控え、生徒たちは授業など上の空。関根美奈子も、友人の大野秀美と、夏休みの計画の相談に花を咲かせるのでした。

(効果音) (ホームルームのガヤ)
坂上先生 いいか、今説明したように、夏休み中は特に健康に注意して。それから、浮かれてハメ外すんじゃないぞ。盛り場をフラフラしたり、夜遅くまで遊び歩くんじゃないぞ。
男子 先生もね！
(全員) (笑い)
坂上先生 なんだ、お前たち、人の心配よりも、自分たちが気をつけろよ。食いすぎて腹こわしたりするなよ。先生はお前たちを信用してるからなあ、期待にこたえてくれよお。それじゃ、これまで。
男子 起立。
(効果音) (イスの音)
男子 礼！
(全員) さようならー。
(全員) (ガヤ)「じゃまた9月にな。」「元気でね。」
秀美 ねえねえ美奈子、いいでしょ、今度の土曜日。

美奈子 うん、たぶん平気。今日、お母さんに聞いてみる。

秀美 よかった。それじゃさ、待ってるからね。あ、それからさ、なるべく格好キメてきなよね。

美奈子 え、なんで？ 秀美のうちに泊まるのに…。あたし、あんまりナウい服持ってないし。

秀美 え、まあちょっとね。(含み笑い)じゃいいよ、あたしの服、貸したげるから。大丈夫よ、そんな心配そうな顔しなくたって。じゃあね、電話ちょうだいね。バイビー。

美奈子 あ、秀美、秀美ってば。(モノローグ)んーもう、言いたいことだけ言って。いったい何なのよ、「キメてこい」って。…まあいいや。秀美んち行くの久しぶりだし、夏休みだもんね。この際、カたいことは言わないと。

ナレーション そして、その土曜日――。

美奈子 (モノローグ)あーあ、このブラウスにこのスカートじゃ、イマイチ キマらないんだよねえ。ブラウス、ピンクのほうがいいかなあ。んー、なんかパツとしないなあ。あ、そうだ。香水つけてみようかな。確か、お母さんの鏡台にあったっけ。

(効果音) (廊下をバタバタ走る音)

美奈子 (大声で)それじゃ、行ってきまーす！

母 (モノローグ)まあなんでしょう、あんなに慌てて。あら、この香り。あの子、香水なんてつけていったのかしら。

(効果音) (ドアチャイム、開閉音)

秀美 あー、美奈子、待ってたよ。上がってよ。

美奈子 うん、お邪魔しまーす。

秀美 へえー、なかなかいい線いってるよ。あ、香水つけてるー。

美奈子 えへへ、まあね。だってさ、秀美が「キメてこい」って言うからさ。

秀美 うん。じゃ、そろそろ行こうか。

美奈子 え、「行く」ってどこへ？ どこ行くのよ、こんな時間に？

秀美 うん、いいとこよ。実はさ、クラブの先輩でさ、今、高校生なんだけど、よく遊びに連れてってくれる人がいるんだ。その人たちが駅前の「プアーハウス」っていうお店にいつも集まってるの。で、あたしにも「出てこい」って言うからさ。

美奈子 え、でも「プアーハウス」って、お酒も飲むお店じゃない。

秀美 そうだよ。でも面白そうじゃない。それに、その先輩の仲間って、みんなカッコいい人たちばかりでさ。やっぱ、高校生って、大人っぽくていいんだよね。

美奈子 へえー、高校生か…。

ナレーション その時、一瞬美奈子の心に、終業式の日、坂上先生の声が響いてきたのですが…。

坂上先生 (エコー)盛り場をフラフラしたり、夜遅くまで遊び歩くんじゃないぞ。先生はお

前たちを信用してるからなあ。信じてるからなあ。

秀美

何よ、美奈子、乗らないの？

美奈子

う、うん、行くわよ、もちろん行く。夏だもん、自由にやらなくちゃね。

秀美

やったね！ そうこなくちゃ。

(音楽)

(ロック音楽)

高校生A

よう秀美、来たか。

高校生B

やあ秀美ちゃん。久しぶりじゃん。

秀美

こんばんは！ 今日ね、うち、だれもないから、友達誘ってきちゃったの。この子、同じクラス的美奈子。

美奈子

初めまして。関根美奈子です。

高校生A

へえ、秀美のダチか。

高校生B

美奈子ちゃんていうの？ かわいいね。ここ座んなよ。あ、おれ、水割り作ってやるよ。

高校生A

バカ、こいつらはジュースだよ。まだお子様なんだから。

秀美

あー、ひどーい先輩。子供じゃないもん。あたしもお酒がいい。

高校生A

大丈夫なのかあ？

高校生B

平気平気。それじゃ美奈子ちゃんも飲むだろ？

美奈子

は、はい。(モノローグ)いいのかなあ、お酒なんて。もし先生やお母さんに見つかったら、どうしよう。ヤバいよね。…でも秀美ったら、あんなに飲んじやって。あたしだって少しぐらいなら大丈夫よね。それに、この先輩たち、優しい人たちみたいだし。今日だけよ、今だけ。

ナレーション

こうして、その優しい高校生の先輩たちに勧められるままに、グラスを空ける美奈子たちでした。ところが、彼らの優しさこそ、クセモノだったのです。案の定、時間がたつにつれて…。

高校生A

はあ、秀美。今日、おふくろさんいないんだろ？ だったら、おれんとこ泊まりに来いよ。話は尽きないしよ。

秀美

えー、そんなの、ダメだよ。

高校生B

いいじゃん。な、美奈子ちゃん、おれと仲良くしようぜ。もうおれたち大人じゃないか。な？ な？

美奈子

や、やめてください。

(効果音)

(「ピシャツ」とひっぱたく)

高校生B

なんだよ、優しくしてりやつけ上がって。

美奈子

秀美、帰ろう！

秀美

う、うん。

高校生A

いまさら何言ってんだよ。なめんじゃねえぜ。

秀美

キャ！ やめて、放してよ。

高校生B おとなしくしてろよ！
美奈子 秀美、早く！
(効果音) (二人、バタバタ逃げ出す時、店の何かに当たって壊れる音)
二人 (息をハアハア弾ませて)
美奈子 (おびえた声で)もう追いかけてこないかしら。
秀美 分かんない。どうしよう、美奈子…。
坂上先生 (遠くから)おーい、おーい！(息を弾ませて近づく)やっぱりお前らだった。やっと見つけたぞ。何やってんだ、フラフラと。
二人 あ、先生…。
坂上先生 なんだ、酒臭いじゃないか。
美奈子 いま、怖い高校生につかまって。
秀美 最初はいい人たちだと思ってたんです。それで、お酒も「少しぐらいなら」って…。
坂上先生 バカヤロー！(二人をひっぱたく)いい加減に目え覚ませ！お前ら、もう少しでどうなったと思ってるんだ！
二人 先生！(泣き出す)
坂上先生 あーあ、泣くんじゃないよ。泣かれるとヨワいんだよ、おれ。さあ、あそこで休もう。
ナレーション 坂上先生は近くの公園のベンチに二人を座らせました。
二人 (なおもすすり泣き)
坂上先生 だけど危なかったなあ、ほんとに。関根のお母さんから電話もらって、「大野んちに行ってるはずが、大野のどこに何度電話してもだれも出ない」っていうから、心配して探しに来たんだぞ。まったくお前ら、いくら夏休みだからって、調子に乗るんじゃないよ。まあ身に染みて分かっただろうけどな。
美奈子 先生、ごめんなさい。
秀美 こんなことになっちゃうなんて。
美奈子 ただ、「ちょっとだけ自由にやろう」って思っただけなのに。
坂上先生 うーん、“自由に”か。まあ気持ちは分からないでもないけどな。先生だって、若いころは、いろんな遊びや、大人の世界に興味あったしな。だけどな、本当の自由ってのは、なんでもかんでも好き勝手なことやったり、好奇心のままに突っ走るのとは違うぞ。
秀美 “本当の自由”ですか？
坂上先生 うん。先生が大学生の時からクリスチャンだってことは知ってるだろ。キリスト教ってのは、「あれもダメ、これもダメ」っていう堅苦しいもんじゃなくて、本当に心から自由になれるんだぜ。
美奈子 “心から”？ 心が自由になるってこと？

坂上先生 そうだよ。どんなに自由奔放な振る舞いをして、心に後ろめたさとか、「お母さんにバレたらどうしよう」という気持ちがあったら、ちっとも楽しくないだろ？

美奈子 うん。

坂上先生 反対にな、心の中の醜いもの、汚い思い、聖書で言う「罪」だな、その罪に縛られなくなったら、外側だけの“自由っぼさ”なんかにはフラフラしなくなるぞ。

秀美 ふーん。じゃ先生は本当に自由なんだ。

美奈子 あたし、キリスト教って、もっとカたいものかと思ってたけど、違うの？

坂上先生 そうだよ、お前。それどころか一番自由だぜ。第一、「悪いことはやりたくない。やらない」という自由があるんだから、何やっても伸び伸び、楽しいもんだよ。

二人 ふーん…。

坂上先生 そうだ、お前ら、メシもまだ食ってないんだろ。

二人 あ、そうだ。おなかすいた、先生。

坂上先生 じゃ今から、先生とこ来いや。まずメシ食ってから、どうやったら二人もそうなれるか、話しようや。

二人 はーい！（笑い）

ナレーション 二人は、周りの人がニヤニヤ見ているのも構わず、坂上先生の両腕にしがみついたのです。

聖書の言葉 キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。

<完>